別紙3

☑ ソフト事業のみ　☐ ハード事業を含む

# 成果検証報告書

## 【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度　　６年度

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 市町村名 | 春日部市 | | | | | |
| 提案事業名 | 武里駅西口エリアマネジメント推進事業 | | | | | |
| 事業期間 | ４年度　　～　　５年度 | | | | | |
| 成果指標 | （成果を検証する指標）<br>①新たなまちの担い手による事業化件数<br>②スクラム商店街プロジェクトに参加する商店会の会員数 | | | | | |
| | （成果検証の具体的な方法）<br>①令和4年・5年度の「リノベーションスクール」における受講生の提案事業の実施件数の把握<br>②スクラム商店街プロジェクトに参加する２つの商店会の会員の把握 | | | | | |
| | （成果の目標値に対する実績） | | | | 達成度 | A |
| | 従前値<br>(5年4月時点) | ①0件<br>②0名 | 目標値<br>(6年4月時点) | ①3件<br>②54名 | **実績値**<br>**(6年4月時点)** | **①3件<br>②51名** |
| | （施設建設等の場合の実績） | | | | | |
| | 年間利用者数（人） | （目標）<br>（実績） | | 稼働率（%） | （目標）<br>（実績） | |
| | 住民への公表状況及び特記事項 | 市のホームページ及びSNSにて公表 | | | | |

## 【事業効果の整理・原因分析】

令和5年度　構成事業

| 構成事業名 | 事業効果 | 事業効果の概要及び原因分析 |
|---|---|---|
| ① 武里駅西口エリアリノベーションまちづくり事業 | ○ | 実践型ワークショップを開催し、空き店舗や公共空間の遊休不動産を活用する事業計画を作成し、事業化に結び付けることで、エリアの価値を高め、賑わいの創出を図る。 |
| ② スクラム商店街プロジェクト事業 | ○ | 周知が実り、商店会会長を中心として定期的なワークショップの開催(全10回程度)を行い、各回とも一定数の参加者を確保できた。また、参加できない方に対しては、「スクラムニュース」を各回ごとに発行し、周知のツールとして活用した。 |
| ③ | ○　△　× | |
| ④ | ○　△　× | |
| ⑤ | ○　△　× | |
| ⑥ | ○　△　× | |

## 【成果検証の総括・改善策の検討】

| | |
|---|---|
| 実施事業について<br>十分に成果が認められた点 | ①事業開始や事業開始準備（法人設立、ワークショップ等）を行っている事業、地域を巻き込んだイベントを行うなど、賑わいの創出に寄与していると考える。<br>②街おこしに精通する外部専門家との連携を図りワークショップを重ねることで、商店会同士がスクラムを組み「連絡協議会」を立ち上げ「情報の共有」、「自走」に向けて始動するなど、一定の成果が得られた。 |
| 実施事業について<br>成果が不十分である点 | |

| | |
|---|---|
| 成果検証を踏まえた<br>今後の改善策 | ①実際に活動している件数としては3件となったが、まちを活性化するうえでは、事業の継続と事業店舗数の増加が必要と言える。<br>そのため、より発展できるよう事業の継続や、まちへ浸透し、根付く必要があると思われる。 |

（記入上の注意）

【成果指標の達成状況】

・達成度（A・B・C）の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」　目標値に対する実績値の伸び率が８０％以上の場合
実績値≧（目標値－従前値）×80%＋従前値

「達成度B」　目標値に対する実績値の伸び率が６０％以上８０％未満の場合
（目標値－従前値）×60%＋従前値≦実績値＜（目標値－従前値）×80%＋従前値

「達成度C」　目標値に対する実績値の伸び率が６０％未満の場合
実績値＜（目標値－従前値）×60%＋従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果（〇・△・×）の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果〇」　事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」　事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」　事業効果の発現がほとんど認められない